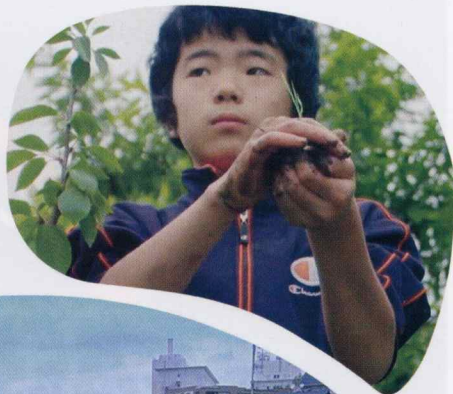




やってみたい
「が」
いっぱいある。

重江良樹 監督作品
(『さとにきたらええやん』)

ゆめパ のじかん



yumepa-no-jikan.com

神奈川県川崎市にある子どもたちの居場所「川崎市子ども夢パーク」＝通称「ゆめパ」。
遊んで、転んで、立ち止まって……誰もが安心して自分らしく過ごせる居場所で育まれる、
子どもたちのかけがえのない“じかん”を情感豊かに描いた珠玉のドキュメンタリー。

監督・撮影：重江良樹 構成・プロデューサー：大澤一生 編集：辻井 潔 音楽：児玉 奈央 制作協力：認定NPO法人フリースペースたまりば
撮影協力：川崎市、川崎市子ども夢パーク、公益財団法人 川崎市生涯学習財団、夢パーク支援委員会、ちいぐれん(地域で子育てを考えよう連絡会)、風基建設株式会社
製作：ガーラフィルム、ノンデライコ 宣伝：ウッキー・プロダクション、リガード 配給：ノンデライコ 2022/日本/90分/日本語/カラー/ドキュメンタリー
助成：文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会 推薦：厚生労働省社会保険審議会



地域情報

何をしてもいい。何もしなくてもいい。 きみは、きみのままでいい。

いまを生きるすべての子どもと、かつて子どもだった大人に贈る、 生きる力を育む“じかん”

「ゆめパ」は子どもたちみんなの遊び場。約1万㎡の広大な敷地には、子どもたちの「やってみたい」がたくさん詰まっています。手作りの遊具で思いっきり遊ぶ子どもたち。一緒にどろんこになっている親子。小さな子どもを連れた自主保育のグループ。ゆめパにはいつも子どもと子どもに関わる大人が集っています。

ゆめパの一角には「フリースペースえん」があり、学校に行っていない子どもたちが自分の「好き」をあたためています。安心して、ありのままの自分で過ごせる場所で、虫や鳥を観察したり、木工細工に熱中したり、ゴロゴロ休息したり。でも、時には学校や勉強のことが気になる子も…。新しい春を前に、一人の子が自身の将来を考え始め――。

家庭でもない、学校でもない、第3の子ども
の居場所を公設民営で運営している先進的な
モデルとして、全国の自治体から注目を集める
ゆめパの日々を3年にわたり撮影したのは、『さ
とにきたらええやん』の重江良樹監督。遊ぶこと、学ぶこと、休息
すること、人と共にあること。その輝きも揺らぎも、子どもたちのか
けがえのない「じかん」はきっと大人たちにも大切なものを思い起
こさせてくれることでしょう。

子どもも大人もみんなが作り手となって生み出される「居場所
の力」と、時に悩みながらも、自ら考え歩もうとする「子どもの力」
を描き出したドキュメンタリー。



子どもは“好き”を見つけ、“自分らしさ”を表現する
才能があると改めて感じました。

『ゆめパのじかん』では、その才能を最大限に発揮し、大人にはない行動力を爆発
させている、子どもたちの輝く瞬間をリアルに映し出しています。周りと同じである
必要なんてなく、自分らしさを持つことが大切だということを子どもたちが教えてく
れました。年齢問わず、多くの方にこの作品を観ていただきたいです。

――中川翔子(歌手/タレント)

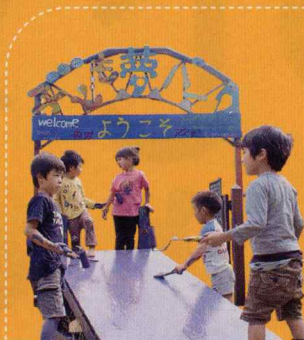
「子どもは自分で考えて決断することができない庇護すべきか弱
いイキモノである。だから、我々オトナは彼らを守り、教え、“正し
い道”に導かなければならない」。『ゆめパのじかん』を観た後は
そんな思い込みがきつと一掃されてしまうだろう。

無気力で勉強嫌いと思われがちな
不登校児のイメージも変わるかもしれない。

――深爪(エッセイスト)

未来はひとりひとりの
手作りの希望からしか生まれない。

――谷川俊太郎(詩人)



「川崎市子ども夢パーク」とは
神奈川県川崎市高津区にある子どものた
めの遊び場。2000年に制定された「川崎
市子どもの権利に関する条例」をもとに市
民参画で作られた。工場跡地を利用した約
1万㎡の広大な敷地にはプレーパークエリ
ア、音楽スタジオや創作スペース、ゴロゴ
ロ過ごせる部屋のほか、学校に行っていない
子どものための「フリースペースえん」が関
設されている。乳幼児から高校生くらいま
で、幅広い年齢の子どもが利用している。

yumepark.net

3/17
(火)
13:30 上映

主催；高槻市
参加費：無料 当日先着50名
企画運営；高槻市障害児者団体連絡協議会
TEL 072-672-0672 FAX 072-661-4171
支援の必要な方は連絡下さい

場所；高槻市立障がい者
福祉センター
4階 研修室
高槻市城内町 1-11
072-672-0267